

各企業の社会貢献

宮坂建設工業が各現場に設置

自販機で「緑の募金」

納入業者、森と緑の会と覚書交わす



計画によると、宮坂建設工業は自社施設や小規模を除く工事現場にペプシの自販機を設置。売上のうち缶飲料一本につき四円を宮坂建設工業が、またペットボトル一本当たり二円をペプシ側が負担し募金に充てる。自販機には募金活動の周知シールを貼り、年に百数十ヶ所の現場に設置する予定で、年間三十〜四十万円の募金額を見込んでいる。活動期間は年内で一区切

森林を守り育てる活動に役立てて。宮坂建設工業(株)（帯広、宮坂寿文社長）は自社の工事現場等に設置する飲料自販機の売上の一部を「緑の募金」に寄付することを決め、飲料を納入する北海道ペプシコーラ販売(株)（樋口吉信社長）および公益社団法人北海道森と緑の会（堀達也理事長）との三者で十四日、覚書に調印した。

札幌市内の北海道林業会館で行われた調印式には、宮坂、樋口の両社長と堀達理事長が出席。覚書にサインし交換した写真。

北海道建設新聞 2010年(平成22年)9月15日(水曜日)

りつけたあと、来年は一月〜十二月の一年間にわたり取り組む。そのあとは継続するかどうか検討する。従来から環境問題に積極的に取り組む宮坂建設工業は、施工したコープさっぽろ西宮の沢店新築工事が集材材を使った大型未造店舗（エコ店舗）だったことを

契機に、CO2削減などに結びつく森林づくりに協力しよう今回、募金活動を決めた。全工事現場を対象にし、なおかつ三者による大がかりな募金活動は道内初という。宮坂社長は「CO2削減や地球環境、緑の保全に役立てられるよう、長く続けたい」と話している。

緑の募金活動 参加で覚書

宮坂建設工業が 道森と緑の会らと

宮坂建設工業（本社・帯広、宮坂寿文社長）は、自社施設や工事現場内に設置する自動販売機の売り上げの一部を、森林保全のために寄付する活動を始める。14日に札幌市内の林業会館で、寄付先となる北海道森と緑の会（堀達也理事長）と、活動を支援する北海道ペプシコーラ販売（本社・札幌、樋口吉信社長）と覚書を交わした。



緑の募金活動の覚書に調印した。左から樋口社長、宮坂社長、堀達理事長

宮坂建設工業は、近年、地球環境保全活動に力を入れ、植樹や現場でのゼロエミッション化、工事事務所でのソーラーパネル設置などに取り組んでいる。現在、札幌市内で生活協同組合コープさっぽろの大型未造店舗を施工していることから、森林保全活動をより進めるため、北海道森と緑の会

が展開する「緑の募金」活動への参加を決めた。具体的には、宮坂建設工業の工事現場などに設置するペプシコーラの自動販売機に、緑の募金マークと活動の狙いを表示。売り上げのうち、1缶当たり4円、ペットボトル1本につき2円を寄付する。年間の寄付総額は30万〜40万円を見込む。北海道森と緑の会によると、3者による緑の募金活動の提携は初めて

だという。覚書を交わした宮坂社長は「グループ内の企業や工場にも声を掛けて活動の幅をより広げていきたい」と意気込みを見せる。